Wason HQ 1104 J74+
June, 1891 No. 270

女學雜誌

第二百七十號
明治二十四年六月二十日發兌

夢占　ひさご

ミルトンの詩　雲井春香

日本評論の記者が寄稿に係る、着想高潔、觀念秀麗、天詩人の最長所を描寫し盡す。

敬宇先生の傳　門人社員

其信念、其持論、其性格を、尤とも明確に論證し、一々據所を添へて苟くもせず、當代の高儒を精評し了る。

化粧　蓮峯生

下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜 女

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 270 JUNE, 20TH. 1891.

EDITORIAL :—Dr. K. Nakamura,

HE HOUSE HOLD :—Economy. A Good Book on Household Economy. The Little Farmer. Use for the Useless.

CHILDREN'S COLUMN :—"Little Lord Fauntleroy." (A Translation.)

MISCELLANEOUS :—"Yumeura." Soilette (II) "The Friend of the Blind." A new Magazine.

NOVEL :—"Shikwai no Arashi." (A Story of Persecution in Japan in the 16 Cen.) "Courtship of Miles Standish." (A Translation).

OPEN LETTER.

CRITICAL NOTES.

NOTES AND NEWS.

QUESTIONS AND ANSWERS.

CONCERNING WOMEN.

第二百七十號目次

社說　中村敬宇先生

家政　經濟學○好き經濟書○小農夫○廢物利用

見鑑　小公子(若松しづ子)。

雜錄　夢占(ひさご女)○化粧の二(蓮峯生)○「盲人之友」に題す。

小說　紫海の嵐(みさを)○マイルス、スタンヂッシュの戀(愛山逸氏)。

文學　ミルトンの詩に就て(雲井春香)○和歌數首(東京案山子の舍社中)

批評　威氏經濟學○文章教科書○閣中政治家○保元物語

時事　省聽の不始末○文學界○コレラ○學風一轉○咽頭三寸○伏養○安息○新聞雜誌

問答

女報

週報

物價

附錄　日本女學校卒業生姓名錄

明治女學校資義捐音樂會目錄

本廿日午后二時半 帝國ホテル開會

第一部

(一) 演說 — 島田三郎君

(二) 洋琴連彈 ソナタ○ベトーベン作 — 新井さく子、佐藤てつ子

(三) 唱歌 埴生の宿 — 明治女學校生徒諸氏

(四) 獨唱 天地○ピンシユチ作 — ミス、モルトン

(五) 洋琴 ギラルダ(舞踏曲) — 納所辨二郎氏

(六) 唱歌 晴朗中夜○アーサー、アリバン作 — フェリス女學校生徒諸氏

(七) 三曲合奏 都の春 — 山勢松韻氏外數名

狂言 吹取 — シテ三宅總三郎氏 何某乙 山脇元治氏 三宅藤造氏

薙刀 — 明治女學校生 松井まん子—河野たけ子 佐藤すけ子—鈴木げん子

落語 — 圓朝

第二部

(一) 洋琴 — ミセス、グリーン

(二) 薩摩琵琶 — 田原元尙氏

(三) 復音唱歌 歌二曲 — ミス、ランド ミス、ハート

(四) 女王ドグマ — ミス、プリンス

(五) 獨唱 — ミセス、チーチエ

(六) 三曲合奏 みだれ — 山勢松韻氏外數名

以上

誌 學

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第二百七十號　明治二十四年六月二十日發兌

社説

敬宇先生（下）

弱者を遇するの處置何如んと云ふ事、以て道德の高低を測るの標準と爲すことを得。平民を待すること何如に、貧人をあいしろふこと何如に、不具者を持成すこと何如に。凡そ、此等の諸件は、風俗の文野を卜知するに屈强の問案たり。女性を遇するの習慣何如を以て國の開化を評決すと云ふの事、其いわれ亦た之に同じ。

儒敎は高尚なる宗敎分子を多少含有し、本來其女性を待ずること蓋し冷やかならず。但だ久しく封建制度と同伴して、多くは尙武奪畧の時世に於て其盛を致せしかば、女子を卑しむの風俗自づからにして混じ、后世遂に其敎理中に浸潤したり。去れど、儒敎の本原に溯ぼり、先王三皇の時代に其鑑を學ぶものは、未だ必らずしも男尊女卑の論を可とせざりき。

先生、英國に居て和樂せる高潔のホームを見、女德の秀好にして且つ深遠なる者に交わり、感激の念大方ならず、竊かに考ふるに、儒敎亦た女德を重んずることに切なりと。則はち、東西兩敎の眞理に則とりて、大ひに女子敎育を奬勵せり。云く、

この事は西洋のみならず漢土にても古賢は着意し易に乾坤を首とし詩に關雎を冠むらす、男女の正しきは天地の大義なりとも言へり、文王の如きは母に大任あり、胎内に敎を受け、后に大姒ありて内助の益を受られたり、然るに支那の學者この事を深く推擴せず獨り男權を重んずることゝなれり。

明治八年東京に創めて女子師範學校を設けらる、先生其最初の校長たり。明治十年赤坂門内に同人社女學校を私立す、私立女學校の男校長たるものは、實に先生を以て最始となす。先生の女學に熱心なると、啻に人の子の上にのみ存せず、明治四五年の交ろ、其夫人及び令孃を、横濱山手八十四番の女學校（今の共立女學校）に入學せしむるに至れり。常に云く、大人となるは其幼時の敎にありと。之が爲めに、始めて幼稚園を設置したり。然れども、眞とに幼稚を養育するものは、賢良なる

母にありとし、之が爲めに女學を重んずると彌よ切なり。嘗て云く、

技藝の敎育は童子五六歳智識漸やく開くる時より之を始むるとも遲しとは云ふ可らず、修身敬神の敎養に至りては胎敎尤とも肝腎なり、蓋し其子の精神心術の善惡は大抵其母に似るものなり、其子後來の嗜好癖習に至る迄其母に似るもの多し、然るときは人民をして善き情態風俗に變じ開明の域に進ましめんには善き母を得ざる可らず、絕好の母を得れば絕好の子を得べく、后來吾輩の雲仍に至らば日本は絕好の國となるべし、扨て善き母を造らんには女子を敎ゆるに如かず。

而して、先生の女子敎育は彼の保守偏僻家の窮屈あるが如くならず。たとひ森有禮氏に全同して男女同權なりと言はずと雖ども、男權の暴りに女權を壓するを以て不埒なるとし、女子學びて少しく活潑となれば、直ちに以て之を不行儀なりと速斷する彼の漢學者流の僻見を抱かず、反つて云く、

男女同權の弊を氣遣ふは敎育のなき婦人の亭主を尻にしくを怕るゝに過ず、天道を畏れ眞神を敬し技藝を好み學術を嗜み、其夫の輔助となり相愛し相敬する女子になりたらば、此等の心配はなかるべし、扨て又男女の敎養は同一なるべし二種なる可らず、苟くも人類惣躰をして極高極淨の地位を保たしめんと欲せば、宜しく男子婦人共に皆一樣なる修養を受しめ其をして同等に進歩を爲さしむべし、純淸なる婦人は純淸なる男子に伴なはざる可らず、蓋し善德の律法は男子婦人の差別なく共に遵用すべきは勿論なり。

今世の人或は婦人に書を讀しむる時は慢心するなどと云ふものあり、夫れ慢心すると慢心せざるとは敎育上に關係すべし、たゞ物質の上技藝の上に着意せしめあば我の知る所ろに非ず修身及び敬神の敎を受けしめて慢心に至るとのあるべきや。

先生、女子敎育に於ても亦た東西の兩敎を混融したり。而して先生終生の天職は、實に此邊に存したるとを察知す。吾人は儒敎を以て西敎に全然同一なるものとあすと能わず、其の極めて大切なる所ろに於て相似ると少なからずと雖ども、亦其の同樣の所に於て相異なる所甚はだ多きとを信ず。然りと雖ども、二千年以來儒敎の道德に訓養せられたる我儕日本人

は、先づ儒敎と異同增減長短する所ろを確知するにあらずんば、以て容易く他國の敎道を受入るゝと能わず、假令容易に之を受入れたりとするも、未だ之を消化して滿分の好味を吸收すると能わず。此に於てか、學能く兩敎の長短を窮め、德能く兩敎の主要を實踐し、經驗半生、深く味ひ確く認ためて以て外敎採用の試驗石とあるもの無かる可らず。本邦近世に其人乏しからず。而して先生は即はち此一派の脩德者を代表したるもの也。

先生の基督敎を見るや極めて重し、明治の初年議を朝廷に上まつり、政府何の故に西敎を目して邪敎となす乎と詰り、且つ、當今の敎法改革は、陛下先づ洗禮を領し玉ひて、下万民に風を示し玉ふに若かずとの主旨を辨じ、後ち横濱のブラオン氏に就き自からも受洗せんとを要められたれど、信念未だしとして聽かれず。其后カクラン氏に就て之れを領せられぬ。爾來基督敎徒としての先生が熱信篤行には、幾多の浮沈ありしが如けれど、死に至る迄で、上帝を敬し、基督を重んずるとを忘れず。永逝以前數週間、牧師奧野昌綱氏が其枕頭に於て屢ば祈禱を捧ぐるを謹聽せられぬ。

左れど同時に、儒敎を重んじ、孔丘を敬するとを忘れず。只だ、孔子と耶蘇とを比較し來るとき、耶蘇を一段の上に置き、特に之を至聖として尊拜せり。耶蘇の神性及び三位一躰の敎說に至りては、未だ悉とく認識すると能はず、大率ねユニテリアン流の信仰を以て之を受けたり。然れども、敢て之を疑がふにあらず、亦之を信ぜざるを誇るにもあらず、時としては其信の至らざるを歎じ、强めて之を領會せんとを欲せり。或人に與へたる私書中能く此事を言へり。又嘗て其信仰の程度を告白して云く、

人或は余を以て三位一躰の說を信ずるものと爲ん耶、余は未だ此に達せざる今日、余が學識上の驛站にては、一神を信ずる而已、……行々余が學識の驛站が進んだら確言するとが出來るかも知れず。

以て其强むる所ろ、求むる所ろを推知すべし。

先生の上帝に對するや、之を信ずるにあらず、之を知るにあり。之を愛するにあらず、之を畏るゝにあり。力勉力行、日夜三省して罪惡を避けんとを欲す、而して一度び罪に陷いる時は、明罰昭々、報酬の理に於て亦之を變易すると能わずと

思惟す、故に之を天に祈ると能はずと信ず。此を以て、脩德儉謹、事苟くも正直を旨とし、業必らず熱勉滿引を期す。而して、其學に耽り智を求むるとの切なるや、乳飲兒が乳房をさぐるよりも急なり。漢書に熟して則はち英學に勉め、英學に熟して亦た、獨逸語佛蘭西語に及び、晩年亦梵語を修め、傍はら速記法を學ぶ。門弟に作文の課題を與ふるや、屢ば、「早起快然」と云ふ。實に先生は早起の人にして即はち勉學の人なりき。手に卷を放たず、談じ且つ之を讀むと多し。藏書一万卷、蓄ふる所ろは書のみ、耽ける所ろは讀書のみ。嘗て云く、余は多情なり、學ぶとに多情なりと。又其藏書を收督し、敬宇文庫の設立に意あり、先生唯一の遺命に似たるものは即はち是のみ。先生は多讀多學の人なりける。

溫乎として父の如く、朴として田舍翁の如し、眞摯にして毫も飾らず、率直にして苟くも曲げざるは、先生の風采とす。其談話を聞けば、落々として斷續定まりなし。其演說を聞けば、冒頭言はんとする所ろを言ひ盡し、若くは言ひ了らず都合のまゝに中止し嘗て辨を修めず。文章に至りては修敲研磨敢て一字を纂りにせずと雖ども、編成り辭整ふときは、絕へて新奇の態なく、渾然圓熟して、天然の既成物に似たり。先生常に論ず、至常の行ひありて而して后ち非常の功成ると。先生の文章は其德行の如く、其德行は亦た其持論の如し。

外朴、言迂、殆んど小事に念を掛け難きの躰あり。而して情の微やかなると意想外にして、執意の綿密なると更に驚ろくべきものあり。人は云く、先生は强記なりと、實は强記あるにあらず、强勉あるのみ。先生常に記臆力に乏しきとを憂ふ、たゞ其暗誦の過甚なるによりて記臆する所ろ極めて密なりしのみ。

先生一生の偉蹟は、儒敎西敎に移り行くの過渡となり、自から棹さして其淺深を撿測したるの業にあり。其理想は天を敬し道を守り義務を盡し正直にして謹勉なるにあり。其の感化は、文章と風采と質朴と爭はざるとによりて人を溫化したるにあり。其實功は、西國立志篇と、女子師範學校と、幼稚園と、同人社とにあり。若夫れ、隱微なる罪惡を腐醜の如くに惡み、靈の聖化されんとに瘦心刻骨して、號泣して祈り、義務を盡すのみならず德を立るとを樂しみ、一生の重路を安了するのみならず、遠永涯りなきの來世を確信し、平和怡樂を重寶と

するのみあらず、猛然として弊習を打破し、天下の改革の爲に血を流すことを避けず、人を愛しては之を撫るのみあらず時としては之を鞭撻し、之に衣食地位を與ふるのみならず、之にわが生命を與へ、基督は吾師なりとして尊とむのみならず、吾友なり吾肉なり吾同胞なりとして親しみ、天の上帝を造物主として敬し畏るゝのみならず、更にアバ父よと親しみて、之を愛し之に近づき、森然たる天地の大法を重んずると共に儼然たる吾意識を確認し、限りなきの智識を外に求むると共にわが良心の明火長久に消えざることを、樂しみ、万象四方に顯然たる境界に立ち、神と基督と吾と万代に至る迄で決して離れざることを確信し、罪の滅せざることを怨むと共に后代の吾が靈の發達を望見し、遙かにカナンを見て先づ欣喜雀躍するが如きの經驗に至りては、先生の未だ之を言わざる所ろのもの也。然れども、言行一致、不偏不黨、德を脩めて夙夜休まず、天を敬し、長者を重んじて、苟くも私しせざるの道德に至りては、實に一世の大師表たり。而して今や逝り。先生終に臨み、苦痛なし、遺命なしと遺言し、天を樂しみて死せり、然れども、吾人が先生を失ふの歎き、何によりて盡きん。

家政

○經濟學

山下石翁

是迄の經濟學は一の政治學の如く、家政實地の心得には大したる利益もなかりしが、追々經濟學の空漠たる所ろ無くなり、實地の役に立つ學理定まりて、家政の益となる事柄多し。家政を學ばんとするものは、一應其大略を心得置くべき也。たとへば、物の直段の高くなり又抵くなるは何ゆえぞと云ふ事を知り、扨て云々の事譯あれば騰るべし、是々の譯あれば下るべしと云ふことを能く見極め、たとへば晴雨計水銀の高低によりて天氣の何如んを豫じめ察するが如くすべし。品物多くして買手少なければ、直段下り、買手多くして品物少なければ直段上る。扨て、何によりて品物多くなり少なくなるかと問ふに、米ならば、豊凶によりて産出高の違ふこと一つ、前年より持ごたへの品ありやなしやと云ふこと二つ　外國より輸入する米の多少又は輸出する額の多少など云ふこと三つ、其の外色々あるべし。又何によりて買手多くなり少なくなるかと問ふに、同じく米ならば、年の豊凶を察して豫じめ買メ

る族の、多き少なきなどに關はると一つ、米を食べるもの丶增減二つ（融通よければ米を食べるもの殖ゆ、然らざれば麥稗を食す）、米を製してたとへば酒などにする額の多少に係はると三つ、其外色々あるべし。斯て、買手多ければ、其割に品物の少なくなる道理、品物少なくなれば買手其割に多くなりたる道理ゆへ、もし其一方だに增減あれば、他の一方の割合隨つて多くなり少なくなるなり。斯して其價に高抵を生ず。故に、此の買手とう り品との關係を見て、豫じめ物の價の變化を察すべき也。

一例を示せば先づ斯の如し、經濟學によりて斯る道理を知り置かば、家政の損得に少なからぬ影響あるべし。

○好き經濟書

然るに、實地の家政に應用したる好き經濟書なるもの未だ世にあらず、讀む人に之を紹介するとを得ざるを憾みとなす。左れば、及ばずと云へど、以后本誌に折々少しづ丶其道理を說き示さんとを欲す。

○小農夫

塵はあれども掃き溜めて肥とするとを知らず、庭はあれども野菜を作り惣菜の助けとするとに心付かず、卵を一々高く買ひて雞を慰さみ半分に飼ふとすら知らず、無用の猫を膝の上に載せ乍ら、立つて蠶を養ふとに骨折らず、か丶る細君は一家の放蕩ものに比とし、家の富まんと到底望むべきにあらず、終日變化なく日ごと〳〵同じきとを台所元にくりかへすは鬱陶しき限りあらずや。細君須らく裾を揭げ裏の庭を耕作する小農夫となるべし、亦た雞を飼ひ蠶を養なひ、愛育の德を禽虫の上にも及ぼすべし。益あるのみならず、樂しみあるべし、樂しきのみならず、實は女性本然の責任なり。

○廢物利用

明治十五年、社員が「廢物利用」二冊を著せしより此方、廢物利用と云ふ文字世上の評判となりしが、左りとて實地未だ之を行はざるもの夥たゞし。經濟の眞髓は此の四字の外に出でず。時間の廢れたるを利用する事、品物の廢れたるを利用すると、勞力のなまけて廢れたるを利用する事、人の用ひられず廢れたるを利用する事、など凡て此邊の覺悟何如にあり。天地間一物として新たに增すものなし、要する所ろは只だ從來廢れたるを利用して之を役に立つるにある耳。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

夢占

ひさご女

梅雨前に降り出でし夕立の如き大雨雷さへ鳴りはためきてものおそろしき曉、母のかたり給ふを聞けば、今市坊のとひきつると見しは、夢なりしか、いつより顔色あをざめて死せるやうなりしが、心にかゝりて胸安すからずとのたまひぬ、去年の夏この市坊の父は箱館にてあれぬ寒氣を酒にしのぎしがおもなる原因となり、肺結核にてみまかりぬ、二八の子も引つゞきわづかの年月を一期として父のあとおひて世をさりぬ、この父といへるは我家に久しうつかへし男なれば、惣領の市坊忘れがたみとなつかしく母と東京へ歸りて後、日毎に遊びにとよといひしが、僕は信者なれば日曜日には教會へともなひ給へ、其他の日は學校へ行けばまゐらん事かたしといふ、未信者のおのれいさゝか心すゝまざりしも北風さむき朝も日曜としいへば、遠き道を一人あゆみきて、いざなふにはげまされ日曜學校に時おくれじといそぎつれ立行きし事しば〳〵ありき、としはいまだ十歳なり、こぞのクリスマスを限りにて沸にとひこず、いかにせしかといひくらすうち、市坊の母年始にきたりて流行風におかされし後、咳はげしく外出なりがたしと云ふ、市の傳言は病の爲にはつよき市坊もまけて御正月にあがる事かなはねど、獨樂の御約束は忘れ給ふな、いつも日曜學校の月謝出し給ひし事母よりよく御禮申してよといひぬとぞ、としゆかぬによく心づく子なるよ、さる子は短命なりと聞くを、とく快よくなさまほしといひあへりしが、ほど經て少し快方におもむきしよしにて賀新年と英文もてはなちがきにしたる一片の文おこしぬ、あまりに愛らしければ、かの獨樂にそへて褒美とらせん、何よけんなど母と共にかたりて、其笑顔見ゆるやうに思ひしも、あだに日を經て病加はりぬと聞えぬ、結核といふにゆくをとゞめられしかば、使してうるはしき菓子くさ〴〵の手遊の物どもに起上りの達摩の大きやかなるそへて、この如くとく起上りてとひこよ、又ともに教會へ行かばやといひやりしに、床の上にて幾度もまろばしては、げに起上らぬ事なし、市もかく成てんと力なき聲に高く笑ひぬとぞ、やせこそみゆれ、熱もあらずといふに心落居て白くふくだみたる頰の靨、ねぶたげにあいらしき眼ざ

し、胸高かに袴はきし姿みん日遠からじとおもひたのめていねしはかの雨强かりし夜なり、母の夢占午頃に當りて市妨死去しぬといひこしぬ、この病心亂るゝ事なければ主の御迎へきたりぬ、と天をあふぎてうちゑみつゝ僕は死をおそるゝ事なけれど、ことしに成て、未だ御孃樣の所へ行かざりしがいさゝかの心殘りなり、といふ聲次第に細りて眠るが如く息たえぬ、と僕おほきくならば、大學に入て、學士となるべし、といひしもはかなき夢に成ぬれど、たえずかの文の横文字あり〳〵とめにつき、其言葉今も耳に殘れり、敎會の入口にて、おのれの袖をひかへ、御孃樣の洗禮うけ給ふ所僕見たいナア、といひしはことにするどくてたえずこの聲聞如し、この二ッはいつ迄も盡ぬおのれへのかたみなり、市妨の母は田鶴とぞいふなる、千歳のよはひわれ一人しめて、夫と三人の子に先だゝれし事、不幸のきわまりともいふべし、諺にいへる燒野の雉も、この田鶴が音にはいかで〳〵およぶべきや。

化粧。（其二）

蓮峯外史

余はこゝに、一例を摘んで、記せしものなれば、これに拘泥ず、自家の肉色如何、又面の方圓、大小、瘦肥を觀て、工夫を凝すにしかず、黄昏に向ひたる時、淸素の粧を凝さんことを望まば、黄昏の月、銀の影をしきたる庭に、ゆかしき香を放ち、寒き雪げの風に、玉の肌をさらしたる、梅の姿を、心にとゞめて粧いすべし、艶麗を試みんと思ひなば、春霞の消へゆくあたりに、半は醉の醒たる心地して、咲く櫻の花を思いやるべし、これ余がこゝに、艶、淸、濃、淡を、花の姿にたとへてしめせしものなり、ことに注意すべきは、肉色の淺黒き婦人が、淡粧を凝しても、可憐の飛燕とは、見做しがたく、却て艶麗の粧ひ甚だ美しく、見ゆるならん、肉色白き人にして、濃抹を試みなば、朱紛の顔色を汚す恐あり、他の三粧の內を撰むべし、髮を結ぶにも、其面の形に準じて、島田、丸髷、銀杏返の大小を考へ、天神髷も、達磨返し、櫛卷の小意氣なる風も、機に臨み塲合を計り、種々に工夫し出すべきものなり、若し誤て、小さき圓形の面に、一番形の大丸髷を結びたらんには、其釣合よろしからず、海軍の水夫が、大の

帽を被り、黑き大巾着を頂き、家路へいそぐ、小原女の如き看あらん、又面の大なる方にて、丸形の島田を小さく結び、束髪の蝸牛を腦頂におきなば、高沙の翁か、青年會に在りしむかしと、人や笑はん、束髪の株切も、とぐろ巻の前髪も、面の丸き方には、迚も似合す、細面の方に、髪を邪見につめ上げ、腦頂に寧王女の如く、髪を束ねたるは、更に見にくし、概して髮の餘りつまりたるは、面をむき出しにする樣にて、よろしからず、又近ごろの流行とかいふ、孔鷄の尾の如きたぼは、常ねに首を展し躰を前傾にする習慣を生ずべし、しんなしの摘みたぼ、程よく見どころあるべし、青蛾皓齒は、美人の相といへば、眉は遠山、柳の黛を細く畫くこそよけれ、常に指にて撫上げ、曲をつけるもよし、齒は、毎夕床に入る前に、必ず毛の楊子にて剔り、齒ぐきまで能く洗ふべし、少くとも一週間に一度、研沙磨粉の入ざる齒磨にて、磨くに怠ることなかれ、美人にても腋臭と、口中の臭きは、人をして嫌しむるものなれは、人に接するの前、食後必ず口を嗽ぐべし、むかし揚貴妃は、香しき紅の汗を帯びたりとかや、我邦にはかゝるためし絶てなし、婦人は躰に臭氣を生じ易きものなれば、手巾に香水の用意なかる可からず、若き時、洗ひ粉、糠袋、鶯の糞、蛇の袴、烏瓜などと、品をかへものをかへて面部を洗ふとあれど、皺を生じ、三十になるかならぬに、顔色全く憔悴して、鏡に臨んで、老の將に到らんとするを、歎くなるべし、浦島の子西王母が、年よらぬ術も他なし、面部を餘り氣にせざるによる、毎に冷水にて面を洗ひ、粧を試ろむる時に、温湯にて洗ふへし、熱湯は顔に火熨斗をかけたる如く、皺をのばすべし、されど却て小皺を生ずること甚し、桃臉を學ばんとて、種々の藥品を注ぐもあれど、遂に黑き痕跡を殘すの患あれば、試む可からす、或は近ごろアルセニツクを食する人ありと、そは蝉腸を愛して肺患を起し、細腰を學んで餓死するの類ならん、まづこれまで御注意を乞へば、面部の化粧髪の結び方も、出來たるが如し、當時は兎角新柳の藝者、或は俳優の化粧に、顰を傚はんとする人多し、新駒の琴折姫はといひ、秀調の女房おときは、どうもといふ、さりとて見識のあまり高からぬ樣なり、素人は矢張、美術を基として、時様を折衷し、いやみなき自家優美なる化粧を、工夫するにしかず、勿論意氣で、恰當て、人柄で、愛敬は笑窪

から溺れる樣だと、人の評するは、たゞに化粧より出たるものにてはなく、血肉の内部にある、優しく高尙なる心の源より、流れ出で自ら外形に溢れたるものなり、假定玉の階に咲たる紅梅、賤が籬の梅も、色こそかわれ、香は同じく、袖にうつり香り、身にもしむ、老若貴賤醜美の別なく、心の花のかほりも、かくやあらん、優にやさしき心だにあれば、面貌の醜美を論ぜす、何となく愛敬充ちて、うるはしく見ゆるあり、いでや外面の化粧を後にして、まづ心の裝飾に意を專らにせられんことこそ、望ましけると、目鏡をはづし、御化粧なしの眞面目で、串のぶることと、かくのごとし。

〇「盲人の友」に題す

世の音を觀ずるは肉の眼にはあらじ。左れど若し之を欠かば、人世の幸福の半ばは失ベし。父母の尊容も拜すると能わず、妻子の温顏も認たむると能はず、恨み幾千ぞ。昔し塙撿校十五夜の月に向ひ、

花ならば手に取りて見ん今日の月

とよみぬ、心根察せられて不憫なり。

德川政府仁ありと云ひつべし、幕府の制度特に盲人を保護し針、按摩、は彼輩のみの專ばらにすべき業と定めたり。故に御殿に出づる上向の按摩も悉とく盲人と限り、未だ嘗て正眼の人を用ひず。正眼者にして同業に就事するは、啞、白癡、片環ものゝみなりしと云へり。

往新以來、四民同等、上下混和、職に尊卑なきに至りぬ。一進化と云ふべし。左れど生來不幸にして天與の感官を欠き、活潑々の地に出でゝ自由に競爭するとを得ざる盲人諸氏が爲には、世上自づから一種の保護を供する所ろなかる可らず。近時、正眼者にして針、按摩を業とするもの增加し、殿上の治療者に至る迄で皆な肉眼あるの人也。盲人の迷惑莫大なりと云ふ。同胞一念慮せずんばある可らず。

斯る事情に際し、有志の人「盲人之友」と云へる雜誌を發刊し、盲人が爲めに困苦を訴へ、見へざるの境界を世上に發露して、四方具眼の人の同情を請はんと欲す。余之を聞て、胸切まる。先づ一言を寄せて、同感を表すと云ふ。

兒籃

小公子。

若松しづ子

第六回（乙）

それから暫時待合せる内に、矢張り揃の服を着た丈の高い給事が書齋の入口までセドリックを案内して、戶を開け、殊更武張つた聲で「御前、フォントルロイ殿のお入りで御坐り升、」と注進いたしました。身は給事風情でこそあれ、當家の嫡孫が軈て受續ぎ玉ふ可き領地へ御到着有つて、老侯に初見參に入り玉ふ案内は、容易ならぬ榮擧と思つたとでせう。セドリックは續いて敷居を越へ、坐敷へ這入りました。是はまた大して廣い立派な坐敷で、置着けの道具は皆な豪儀な彫物のした品で、幾層と數の知れぬほどの書棚に、書籍がギシ〳〵詰つて居ました。置道具は總て黒色で、窓掛や、隔ての掛幕はいづれもドッシリして居て、菱形の玻璃窓は殊に間深で、室の隅から角までの隔りがいかにも遠いものでしたから、光線のうつりも薄く、一躰の氣色が朦朧と小氣味わるい位でした。セドリックは始め一寸の間、誰も室にゐぬ樣だと思ひましたが、暫くする内に大きな暖室爐の火の燒ひてある邊に、大きな安樂椅子が有つて、誰か其椅子に腰掛て居るのが見えました。始めには此人物は未だセドリックの方を見向きませんかつたが、他の一方にはセドリックに眼をつけたものが有りました。安樂倚子の側の床にすばらしい茶色のマスチフ種の大犬が寐て居りましたが、體も四足も獅子ほど有りました。此の大の犬が凜然として靜かに床を離れ、彼の小息子に向つて、ドシ〳〵足音させて歩いて參りました。此時始めて彼の椅子の上の人物が聲を發して、「これ、ダガル、こちらへ參れ」と命じなました。併し若君の心には不深切もなければ、亦恐氣もなく一躰大膽な生れでしたから、誠に何氣なく、此大犬の頸わの上に手を置きながら、犬と一處に徐々と進みました。ダガルは歩みながら、頻りに鼻を動めかして臭を嗅ぐ樣子でした。此時侯爵どのは始て、顏を擧げられましたが、先づセドリックの眼に止た者は、頭髮も眉毛も白くフッサリして、窪い烈しい兩眼の間の鼻のさながら鷲の嘴に似た、活服の大な老人でした。侯爵どのゝ眼に止た者は、黒天鵞絨の服にレースの領飾の付いたのを着しとやかな子供の容姿で、尋常で、凜とした顏の

邊には愛嬌毛が浪うつてゐて、何となく、親しげに自分を見て居りました。此城郭を古し話しの御殿とすれば、セドリックはソックリ其中の若殿に見立度樣でしたが、自分では少しも左樣なことに氣が付ませんかつた。然るに老侯が斯まで屈強に見えた孫息子を見、大犬の領に手を載ながら、一向臆面なく自分に顏を合せる樣子を察して、其烈しい御心の中に急に喜悦と高慢の情が燒て來ました。セドリックが犬にも自分にも懼ぢ恐れた樣子の少しもないのが、ひどく武しい老侯の氣に叶ふたのでした。セドリックは、門番の女や、取締を見たも同樣な調子に、老侯を見て、ズット側まで歩み寄りました。

あなたが侯爵さまですか?、僕はハヴイシヤムさんが連れて來た、あなたの孫ですよ、フォントルロイです、知つて入つしやるでせう?

と云つて、侯爵さまでも握手をするのが禮儀で適當なことに違ひないと思ひ、手を伸べながら又大層なれ〳〵しく、

御機嫌は如何ですか、僕は今日あなたにお眼にかゝつて、大變嬉しいんです。

といひました。侯爵どのは、妙に眼を光らせながら、握手の禮をしました。一寸始めには少し呆れ氣味で、言葉も出ませんかつたが、被せかゝつた樣な眉毛の下から、畫に書た樣なセドリックを見つめ、頭から足の先まで餘す處なく觀察を遂げられてから、ヤット、

ソウカ、貴樣はおれに逢つて嬉しいと云ふのか?。

エー、大變嬉しいんです。

セドリックの側に倚子が有ましたが、先是へ腰をかけました。これは寄り掛りの高い、丈の高い倚子でしたが、これへ腰を落着ますと、兩足が下へ着ませんかつた。併し矢張樂そうにチヤントしてゐて、嚴めしいお祖父樣のお顏を、少し抑めながら眼を離さず眺めて居りました。其中、こふいひました、

僕はあなたがどんな人かと思つて、始終考へてましたよ、お船で床の上に寢てゐる時分、あなたがヒヨット僕のとうさんに似て入つしやるか知らと、思つてましたよ。

フン、そうして似て居る樣か?。

と尋ねられて、

左樣さ、おとうさんがおなくなりなすつた時、僕は大變少さかつたから、顏をよく覺えて居ないのかも知れませんが、何

だか似て入つしやらない様です。

それじやあ、貴様失望だろうな?。

イヽヘ、ナニツリヤア誰だつて自分のおとうさんに似てゐれば好けれど、おとうさんの顔に似てないだつて、お祖父さんの顔あらば好ちや有ませんか、あなたゞつて自分の親類なら、誰だつて好でせう?。

侯爵どのは後ろへ反り返つて、セドリックを見詰めて居ました。自分の親類に親しむ妙味は、侯爵どのにまだ分らぬ位でした。なぜといふに是まで時につれ、折に觸れては、隨分親類共と烈しい喧嘩をしたり、出入を禁じたり、誹謗の名呼はりをしたとも有つて、親類どもは、眼の敵に憎んで居たのでした。

フォントルロイは、又言葉を續け、

そうして、誰だつて自分のお祖父さんは好に定まつてますは、あなたみた様に親切なお祖父さんなら尚ですは。

老侯の眼は、又妙に光りまして、

ハヽア、そうか、おれは貴様に親切なのか?。

フォントルロイどのは、威勢づいて、

エーそうですとも、ブリヂェットだの、林檎やだの、ヂックだのに、どふも誠に有難う。

何を申て居る?、ブリヂェットに林檎賣に、ヂックじやと?。

エーそら、あの人だちに遣れつて、あんなにお金を下すつた人のとです、ソラ、僕が入れば遣れつて、ハヴイシヤムさんにそうおいひなさつたでしやう?

ハヽア、あの事か、そうか?、貴様の好につかへといつた金か、全体あれで何を買つた?、聞かせるが好い。

此時侯爵どのは、少しく彼の秀いでし眉を潛めて、覘どくセドリックを見詰めました。必竟此童兒がどふいふとを樂しみにするかと、頻りに聞たくなつたのでした、

アヽ、そうでしたね、あなたは、ヂックや林檎やのお婆さんや、ブリヂェットのと知らなかつたんでしたね、あなたがとんなに遠方に入つしたの僕忘れてましたよ、三人とも僕の親友なんです、それから、アノミケルが熱病でね……。

ミケルとは又誰のことだ?。

ミケルといふのは、ブリヂェットの亭主なんです、そして大變困てたんです、人が病氣で、働ないで、十二人子供があれは隨分大變でせう?、ミケルと云のは、いつでも極かたい人

なんです、そうしてブリヂェットが僕の家へ來ては、泣くんです、それからハヴィシャムさんが、僕の家へ來た晩なんかにや、食べる物がなんにもなくつて、家賃が拂へないつて臺處で泣てたんです、それから僕が逢に行つてたら、ハヴィシャムさんが呼によこして、あなたが僕にお金を下すつたのを預かつて來たつて云つたんです、それから僕が臺處へ急いで距けて行つて、ブリヂェットに遣つたら、モウみんな大變よくなつちまつたんです、ブリヂェットはあんまりビックラして始はほんとにしないんですもの、だから僕があなたに有難いんです。

侯爵どのは例の沈んだ調子で、

ハ、ア、貴樣が好に金を遣つたといふのは、そういふ塩梅なのかナ、それから外に何をした?。

文學

ミルトンの詩につきて

雲井春香

詩人ミルトンのケムブリッヂ大學に在るや、人之を呼んで彼の貴女と云ふ。蓋し其の斯の如き名稱を附せられしは、容貌の清秀にして、頭髮の美麗るばかりなりしと其の原因の一つなりと謂ふべし。然れどもミルトンが品行正しくして、其の肉慾に於るの處置精神極めて清潔を旨とし、當時普通の習はせとなりたる放恣淫蕩の弊を脱して、少しも其の汚れに染らざりしことも其の貴女と謂はれたる著明の理由にてあるなり。英雄色を好む、飲酒三斗にして豪傑の眞相を得たり、なんど一種の僻說を吐く輩はミルトンの實例に由りて其の所見の誤れるを知るべし。彼は一個の大丈夫なり。彼は風流の奇才子なり。彼は月に吟じ、花に謳ふの魂を抱きたり。其の風采は優にやさしき人なり。彼は遊心勃々として禁ずること能はず、イタリの明媚なる風光に行吟して餘念無く、更にアテンスの古都を尋ねて其昔を忍ばんと思ひしも、故國に內亂起りぬと聞ては、風流の遊を擲ちて、其家山に歸り、愛國の志士とともに奔走經營したる所少しとせず。曾て詩人の本領を論じて曰く優美なる事物につきて、才筆の用を縦にせんと欲するものは、其の身自ら眞正の詩たらずんはある可らず。彼が一身は殊勝にして尊敬すべき事物の標本たらざるべからず。凡よそ吾人の頌美すべきどと身に實驗することと無く、妄りに

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

英雄を談じ、偉大なる國家を說くが如きは、豈に愧づべきことに非ずやと。又曰く、聖書は婦人を以て男子の榮光とす。其の自らを汚して、肉慾の奴隷たるに至りては、忌はしきこと限りなしと謂はざるを得ず。然れども其の肉躰を上帝の像に肖り造られたる男子に至りては、其の情慾を放にすること甚だ大なる耻辱とす、云々。

ミルトンの時演劇の風俗大いに亂れ、舞臺は淫蕩好色の學校とも稱しつべき狀態なりしかば、儼正あるミルトン痛く之を慨嘆し、力を極めて之を排斥したり。然れども演劇の腐敗せし故を以て、演劇其のものを非とするは、識者の屑しとせざる所なり。演劇は高貴ある美術なり。ソフオクリス、エイスキラスの著作せる院本を以て其の實證とすべし。ミルトンは世の僻偏なる道德家の如きに非ず。時流演劇院本の害毒を排擊すると同時に、清潔なる著述を以て、其の弊を洗滌し、此の技の眞面目を發揮するは、志ある詩人の天職なりと思惟せり。彼が「コマス」の傑作を爲しつるは蓋し此の志あればなり。

ブリッジウオートル公盛宴を張り、大いに貴紳名流を饗せんと欲す。其の餘興として、假粧舞の催しあり。ミルトンに新作の一曲を懇請して止まず。ミルトン之を默止し難く思ひて、述作せしものを「コマス」とす。原と此れ饗宴の餘興なり。尋常の述作家ならんには、風流滑稽を主とし、甚しきは婀娜きたる戲曲をものして、請求に應ぜしことならん。然れども、高潔儼正なるミルトンは即はち然からず。其の通篇の精神男女間に清潔の德を養成し、人をして邪慾を斥ぞけ、身を淨めしむるに在り。「コマス」の主人公たる一貴女不測くも深林のうちに路を失ひ、其の二人の兄弟に離れて、怪しげなる所に迷ひ入る。邪惡の魔仙、其の奸曲汚穢の衆徒を引卒し來りて、其の邪術を施し、此の清潔なる婦人の身に不思議なる汚點を加へんと欲す。彼の貴女は將に是れ風前の燈火に髣髴たり。其の危うきこと名狀するに言なきが如し。然れども手弱き貴女は凡ての惡計に勝ち、凡ての魔術を折伏するの武器を其の淸らなる胸中に藏め居たり。

若しや魔仙の奸計を運らすには非るか。斯る想像の浮べるとき尋常の婦人等は氣怯れしつゝ爲ん方を知らざるべし。然れども貞心てふ猛き武夫を伴ひて、片時も之に離るゝことなき義人の心は何をか怖れん。あゝ嬉し、眼淸

しき信仰の德、…………あゝ汚點なき清潔の狀！、余は明らかに汝らの形を認識す。天は善人の遭遇する害惡を使役して其の眞利を輔佐せしむ。上帝は最上の善なり。巳に彼にして存す。若し必要なる場合起らば、上帝は其の光彩燦たる保護者を派遣して、余が生命、余が清潔を主とせる面目を維持することあらん。

善を信ずるの精神、善に與みするの天に一任するの信仰、魔力否な萬物も奪ふこと能はざる清潔の志、コマスの詩中に溢れたり。

（未完）

池袋清風大人批　（東京案山子の屋社中）

折にふれたる卯時鳥　林公一

なき人を思ひつゝくる小夜中に獨り蛙の聲をきくかな（音なぞなきける）

評　終句直しの如くあらまほし、

卯花　仝

白雲とまがふ卯の花なかなかに夏のあるじと成にける哉（のみ）

時鳥　竹内うめ子

卯の花の匂ふ垣根のしのゝめになき渡るかな山時鳥（我窓の。しらむ　こえ渡れ）

評　垣ねとは一小部分のみしのゝめは一般の夜明けなり、故に垣ねのしのゝめとはいはれず、

●正誤　前號に擧けたる最初の歌第二句高根の月は松の誤り也

小説

紫海の嵐　第九回　みさを

大村より急使至れると聞き義鎭は何事の起りけるにやと先づ使者を近く呼びて問ふ、使者は忽ち鞍より下り、地に伏して云ひけるは此度奥方より申越さるゝ樣聖敎徒將に亂を起さんとす、未だ反旗を擧げざるは其用意調はざるが爲めなり、反形既に成る、軍備調はゞ直ちに大村城に押寄せ、領地を奪はん、毒龍は未だ其小蛇なるの時に殺すに如かず、禍は未だ大ならざるに防がざるべからず、聖徒等今親虎を擁して大將となし、國家を亂さんとす、聖敎を今日に絶たずんば我國は亡び失せん、公疾く歸城なし給ふて早く計をめぐらすこそ大事なれ、いや歸り給へと御掟の趣き斯の如し。

義鎭は使者の言を聞き終り、いと訝かしき事と思へば容易は答もせず、頭を傾けて考へ居たり、抑義鎭は數十年の昔より聖敎徒と交はり、深く其人となりを知り、亂を醸すが如きはあるべからざるのみか、國主貴人に不敬の行だもあるべから

ずと確く信ず、されば直ちに假屋に立返り、書を認めて使者に命じ、カブラル大師に送らしめぬ、其意に云ふ、大村より使者あり、報ずらく聖教徒將に大ひに國を亂さんとす、今日に平けずんば禍甚しきに至らんと、我思へらく聖教徒にして斯る行爲あるべからず、如何なれば世にもあるまじき噂の起りけるにや、あへて問ふ、速かに答へ給へ。

カブラル大師義鎭の書簡を一讀し、答書を作りて送りぬ、危き報知の至れるにも係らず、尚我等信徒を深く信じ給ふが故に先づ我等に事情を問はるゝを謝す、公久しく當地を立去り、山間に遊獵し給ふにより信徒の近狀を告げ奉らん臼杵の城主義親公先つ頃より親虎公の聖教を奉じ給ふを嫌ひ百計其教を離れしめんとすれども親虎公之に從ず、過る日より公を一室に幽居せしめ、頻りに迫め苦しめしかど親虎公尚ほ從ひ給はず、父君の怒り給ふ事一方ならぬ時に當り、親家公と交はり親しきを知り、斯く聖徒と交はりては所詮迫害の効あらじとて、さては使を大村城なる奥方に遣はし、親家公が再び親虎公と交はるを許さずと云ひぬ、剰へ奥方の親家公を叱責し給ふ事甚しかりければ親家公も忍び難くや思されけん、使を臼杵城に遣し、義親公を責めて曰く我父は國主にして常に聖教を保護し給ふに非ずや、今公之を嫌忌して止まざるは即ち國主の意に逆ふものなり、我親虎公と交はるも何の不可なる事かある、此後尚交はる所を妨げ、亦我に對して敬を欠かば我父に告げて相當の處分を爲すべし、苟も國主の子にして其臣下の輕蔑を甘んずるものあるべきかと、義親公之を聞き大ひに怒り給ひ、公（義鎭）の奥方に使を送り、聖徒が非擧を企つるの事を構造して以て公に報ぜるなり、我等信徒は斯る事なきのみか、義親公が兵を送て我等を殲滅し給ふと聞き、謹みて其意に從はんと待ち居るのみ、公輕々に人の讒を信じ給ふなかれ。臣民が主君に不忠なるが如きは最も聖教の戒むる所、決して爲さず。

斯てカブラル大師は更らに親家に告げ、義鎭公が遊獵せらるる地に赴き、まのあたり事の樣子を告ぐるも可なるべしと云へり。依て親家は直ちに義鎭公の許に至りぬ。公喜びて親家に遇ひ、云ひ給ふ樣、我聖教徒の正しきを知り、其萬人をして徳に進ましめんとするをよろこぶ、されば我彼等を信用する

事いと厚し、嘗て聖教を奉じ且醫師なる異國人我國に來れる時我之に問に西洋諸國の風俗人情等は如何なるやと云ふを以てせり、其人答へて云ひける所甚だ善美にして我國に勝る事多ければ我之を過稱と思へり、されど若實際に斯くあらんには我國にも聖教を傳へ、國風の改革を計るの必要なるを感じ人を遣して葡萄、印度諸國の聖教盛なる地を見せしめしに醫師の言の如くありと云へり。我此頃より愈聖教を傳ふべきを悟り、我領内の所々に會堂を設立せしめ、傳教師を保護せし事一方ならず、今に至りて如何なる報あるとも我彼等に於ける信用を薄くせず、其敬愛の心を少ふせず、汝に聖教を奉ぜしむるを以て見るも我聖教を可なりとするを知るに足るべし、然るに我妻猥りに聖教を嫌惡し、過日の如く誣報を傳ふるに至る、いと口惜しき事の限りなりと云ひて、滿面憤懣の色をあらはし、腕を撫し、歯がみをなして暫し默然たり、小人往々大事を誤る、義鎭公の憤り如何計りならん。

更らに義鎭公語を次ぎて云ふ、義親は我親戚にして我臣下なり、されど若我意に背きて會堂を毀ち、聖教徒を苦しむるが如き事あらば即ち我敵なり、將に嚴しく罰する所あるべし、親虎は早く聖教を奉じ其性忠正なり、我婿たらしめんと欲したれば若義親の意に叶はずんば之を追ふも不可なけれど我婿たらしむるを妨ぐ可からず、汝(親家)疾く歸城なし、義親に我言を語り、親虎を大村に伴なひ來り、其處に住ましめよと、親家此に於て歸りけり。

義鎭も其後久しからずして歸ぬ、歸て後間もなく宮中非常の騷擾起りぬ。使者の出入、藩中の人々交も來る事、僧侶の禱願、醫師の來る事等種々の事一時に亂雜し、上を下へと打騷ぐ、是そも如何なる事の起りしぞ、曰く義鎭の夫人狂氣せるの故なり。さても大友公歸城の後夫人が先きに奸計をなして聖教徒を滅さんとせしに、成らざりければ大ひに公の怒を招き、公の叱責甚だしきにより、心の狹きは女子の性なれば、日夜之を心にかけ、遂に狂氣するに至りぬ。夫れより力強くなり、宮中にて亂暴する事頻りなれども之を抑ゆるものなく遂に力士數名を雇ふて之を幽せしめぬ。夫人に侍りし人々皆佛教を奉じければ多くの僧侶を招き、日夜供物をなし、讀經なしけれども更らに功驗ぞなかりける。義鎭公は亦た醫師を呼び、若夫人の病を治し得ば與ふる所の財貨多きを厭はずと

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

約しけれども遂に愈す人なし、されば宮中の人々皆困じ果て如何にせばやと思ひめぐらしけり。

マイルス、スタンヂッシユの戀

愛山逸民

第六回　プリスキラ（上）

斯くてアルデンは默然として海邊に立ながら心は千々の思に沈みぬ、殊にプリスキラのことをしも切に思ひ廻してゐるに不思儀や人の心は磁石の如く其れが自然の方則に因りて近くものを引寄ると思はるゝ斗り見よ彼が去らんとして顧しときプリスキラは忽然として彼の傍に立つゝありし。

彼女は言へり御身は妾に口きゝ給はざる程に怒らせ給ひしか昨日御身が他人の爲めに熱心に妾に說き給へりしとき思はぬ人に戀はれしが爲め激昂せし妾が心を其儘に打あけまいらせ恐らくは禮貌をも打忘れて耻しながら御身の爲めに說たりし我身は斯く難ぜらるべき者にてありけるか。必らず御身は妾がかの如く勇猛に語りしことを宥し給はるべし、そはたとへ言ふまじきことを言ひしにもせよ今將た之を消すにすべなければなり。抑も人の一生には其心が感動をも充さるゝ時必らず有り斯るときには少しく之に觸るとも＝小石の如きわけもなき言葉を其深淵の中に投ずるとも感情は溢れ出で其秘密は水の如く傾瀉して再び本に反すべふなき者ぞとよ、昨日は妾御身がマイルス、スタンヂッシユのことを說き、彼が欠點さへも其善なるが如く說なして、彼の德行をたゝへ、彼の勇氣と力量とをたゝへ恰も御身等が婦人の心を得べき者は唯武功のみなるが如くに彼がフランダア人と戰ひしことなどをほめそやし御身の「ヒーロ」を褒ん爲めに全く御身自身幷にすべて男子を看過し玉ひしを見て妾が心は物に突れたるが如くなりし、かゝりしかば妾は激昂に得たへで曩に語りまゐらせし如く語りき、御身よ妾は御身が御身と妾との間に結びし友誼の爲めに妾の無禮なりしを許さるべしと信ずるなり、そは其友誼は眞實神聖にして容易に破り得べき者にあらざれは也。此に於て學生にしてマイルス、スタンヂッシユの朋友なるジヨン、アルデンは答へり余は御身を怒りはせざりし、唯我身が托せられたる事務を惡しく取り扱たることを思ひて我身自身を怒れるのみ處女は急かに決然たる語氣もて之を遮りて言けるは否御身は妾が

勇猛に自由に話せしかば妾を怒りしなり、其過たるよしは妾も知りぬ、そは或る要求の聲が其咀呪の沈默を破るまでは（男子に戀を申掛らるゝまでの意）無言なること幽靈の如く默然、忍耐して待つべきは女性の運命なればなり、世に多くのあはれなる女性が、光もなく靜寂ある陰氣なる内界（生活心の有樣を云ふ）を送ること猶地下をくゞる水の暗黑にして聞ゆることなく見ゆることなきはかなき空隙を馳せて終りなく益もなきくり言を石の隧道に激するが如くなるは此が爲也と。青年にして女性を愛するジヨン、アルデンは答へり決して然ることなし、プリスキラよ、殊に我身には女性はイデンの園をうるほせし美しき河よりもハヒアルの荒野を過ぎて土地に好景を與へイデンの記憶をば香しくせしユウフレテス河よりも好く見ゆるなれど處女は再びさへぎりて曰へり呼御身の言葉に妾は御身の如何斗り少かに妾を思ひ、如何斗り少かに妾が言ふ所に心を留め玉ふかをば知りぬ、單へに御身の同情と親切とを求めん爲めに勇猛にも御身に話せしことゞもを汝は之を聞きながら明らさまけに打出せし切なる妾の思を知らぬさましして諧謔にひとしき辭もて答へ玉へり、是は正あき業にこそあれ、御身の中心なる最も善きもの即ち御身の本心に對して眞實ならぬことなれ、そは妾は能く御身をば知れり、御身をば量れり、御身の性質の高尙にして妾をば、一層高き、一層潔き水平に上せ玉ふべきを知れり、されば妾は御身の友誼をば尊びぬ、御身若し妾をば多くの朋友中に唯一人なるものなりと云へる意味を含める一言だに言ひ玉はゞ彼の多くの男性が女性と語るときいと美しと考るものあれども女性は之を意味なき言若くは嘲弄なりとして拒絕する普通なる殷懃なる言葉を用ゐたまはゞ如何にうれしかるべきにと。

批評

○威氏經濟學

目下米國に名ある新派の經濟學士、リチャード、エリー氏の著にして、佐藤昌介君が譯にかゝる。經濟學は、小苦大益を旨とする利己慘酷の學問なりと思はせたる舊派は、近頃やうやく勢力を失ない、倫理道德に適ひて矛盾せざる社會的經濟學日に〳〵勢ほひを得る折柄、日本の論客倘ほ依然としてマンチエストル派を唯一の眞理と思ふこそ痛ましけれ。此書、道德

と國家の經濟的生活（一三七頁）、倫理學と經濟學（二二〇頁）、などの關係を論ずる所、特に秀でたり。就中、家政學と經濟學との差別を說くの一節、女學生一讀の價値あり。譯述の言語文章に何如がはしき所ろ見ゆれど、主旨を貫徹するに於て遺憾なし。新派の經濟學を紹介するには、簡にして且つ重寶なる新書なりと云ふべし。

○中等教育、文章教科書

前橋孝義氏の編著なり。第一編に修辭學の大躰を掲ぐ。第二編以下、和漢名家の文章中、秀でたるもの、面白きもの等を巧みに拔摘編輯し、段節に畧解を插さみ、用意親切なり。かゝる類の書籍は、掲ぐる所の文例大方似よりたるものなれど此書は廣く集めて多少新奇の品を取りたるゆえ、一しほ面白し、編輯の苦心察せらる。

○閨中政治家を讀む　　雲峯生

我國の文學將に變革を來さんとするの徵あるは何人も認むる所ならん、殊に小說の上に於て此徵候顯著なり、未だコレとて斬新奇拔にして人目を驚かすものなしと雖も少しく心あるものゝ從來の小說を以て甘ぜざるは疑ふべからず、此處に於て讀者は風變りのものを得んと欲し、作者亦此求めに應ぜんとす、是實に我文學の一部小說界の進步近づけるにて、大ひに賀すべきの事とす。

閨中政治家なる一小說、嘗て報知新聞紙上に掲載せるもの、更らに之を冊子となし、聚芳十種第五卷として春陽堂より發兌せり、其新聞紙上に現はれし時既に此小說に對する公評は屢聞きぬ、余今更コト〴〵しく云ふの要なし、されど今再讀して少しく思ふ所あり、此に記して評言に換へん。篇中記する所は主人公の口をかりて述べ、其出來事は題名の如く政治家に關するなり、趣向甚だ珍しく記述する事巧みなり、大團圓に至らざるの間は殆んど讀者をして其小說たるを忘れ、實話の如く思はしむ、此處と云ふて殊に目立つ妙所とてなけれど殆んど全篇通じて面白きを覺ゆ、強て妙所を擧ぐれば初め數回に於て主人公が政治家に出遇ひし所、北海の風景を寫す所、笹木野原の野祭り等ならんか。要するに今日迄流行せし小說と一種異る所あり、小說界に一新機軸を出せるものと云ふべし、只惜むらくは大團圓に「話」云々として結べるにより、少しく本篇の重みを減じたるとを。

尙一言すべきは文章の事なり、多少思軒氏の文に似たる所あれども抱一庵主人獨特の妙所あり、最も叙事に可なるが如し、只てにをはの間違ひとて切りの文字穏かならぬか如きもの見ゆ、例せば纏ふてこそ……見ゆるなり。抱き居るこそ幸なり と云ふか如き、首を垂れて居り、昏々としあり等の句切りの如し。右手をゆんでと讀むも如何にやゆんでは弓手にて左手のことゝ聞く。而して斯る微瑕は更に云ふの要なし、只本篇か近來得がたき傑作たるを讀者に紹介せば足れり。六月十六日妄言多罪。

○保元物語　翠峯生

時代物語の多き内に或は文章を飾りて事實を誤れるものあり或は事實を有の儘に記さんが爲めに文章の妙を失ふ者あり、兩者合せて全きを得たるに近きは夫れ保元物語を以て第一となすべきか、今日學ぶにも少しく古文の躰に過ぎたる所あれば之を學びて更らに近世風ならしめば可ならん、兎に角文學家の一讀を要する書なるは今更云ふ迄もなし。

時事

○省廳の不都合

遞信省の事、北海道廳の事、すでに公然たり。新聞紙が堂々之を忰くと頗ぶる可なり、然れども只だ之を忰くのみにして民心之に激せずんば、社會の良心を如何んせん。總理大臣が冷閑視す可らざるは言ふ迄もなし。三百の議員は決して之を輕々に附す可らず、更に事實を細究し、今年第二期の議會に於て、大ひに彈劾すべき也。

○公論と情實

公論の力は迂弱の情實を許さゞるにあり、曖昧不問に附したる疑々不明の形跡は、議會の公論によりて悉とく痛打擊破せざる可らず。

○進步黨の連合

或は云く、自由黨と改進黨と合すべしと。或は云く、若し合するならば、巳は脫黨すと。內閣は乘取たし、味方は欲しゝ然し乍ら年來の情實を何如にせん。進步主義なる哉、進步主義なる哉、進步よ、進步よ、然し乍ら改進黨よりは保守黨の方好なりと。人世は兎角情實によりて制せらるゝものか。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○至誠

高島子の如き、品川子の如き、今の内閣に目立ちたる新顔あり。刮目して其施政を見るヿを得んか。第一天を破り來るの辭に云く、至誠と。至誠の文字は極めて儼そかなるものなり。此語新大臣の口より發す、慶せずんばあらず。但願はくは其實際に實行せらるゝヿを得ん。

○北海道

北海道。叢然たる大財産の如くにして、既に日々に其産を失ひたり。邦人頭をあげて之に着目注意するの曉は、万年の沃味すでに他の腹中に入り、米麥未だ生ぜず、早く薯蕷の延々たるを見んとす。然るに近ごろ之を開拓せんとするの處置あり、一慶事と云ふべし。

○文學界

文學界何んぞさびしき。櫻痴居士は四方八面に手を延せど、鶴が舞ひ下りたる心地もせず。小説の新版折々見ゆれど繙とき來れば多くは舊作のみ。蓋し新版は舊きものにして、名家は早く老ひゆくなり。葉茂り實は結ぶと云へど、時はすでに秋の末、冬のしもがれの心地せり。

○咽頭三寸

大津事變に際しては、國民にえ返るが如く騒ぎたり。而して今や殆んど忘れたる樣なり。たゞ、人力車連、ホロ馬車連が八方に奔走し、辭職の勸告に骨を折るとか聞えたるが、是も亦た今は泣寢入の姿たあり。同胞は如此く忘れ性なりや。日本の形勢は、去年も今年も同じ。昨日も今日も同じ。

○伏養

野に遺賢なくば、勢力暫らくにして絶止せん、心に伏養する所ろなくば、久しからずして窮せん。經に云く、安息日を聖にせよと。今の人たゞ働らくヿを知りて靜思するヿを知らず、轉々迫り廻りて、着想を安固にするヿを知らず。君子は器ならず、人の、器械とならざるヿを熱望す。

○武道

一言するに武魂を欠けり、武魂の欠けたるにあらず、文中の精神を欠きたる也。小楠、東湖、よく文武二なきヿを辨ず、文武あに二あらんや。今人たゞ文の形骸に得て其神髓に入らず、此を以て瓢々として輕し。吾人は先づ武道の修練を隆んにして、此通弊を救はんヿを要む。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○コレラ

コレラ病の兆少しく見ゆ、子ある母、親ある愛兒はよく〳〵身を重んずべし。たゞに其身の爲のみにはあらず。

○大學々生

法科、醫科などにのみ望み手多かりし大學入校生は今年俄かに趨勢を轉じ、工科に入るもの存外に多しと。時勢一變したるあり。而して善き方に轉じたるなり。

○女醜生

女壯士の名は自由に冠すべし、女學生に至りては決して與ふ可らず。何んとなれば、彼れ決して女學校に學びざりしがゆゑ也。淫密醜猥の女性巧みに假面を被ひ、蛙の水を冠むるが如き風情にて極卑の事を白狀す。白狀するは可なり、新聞紙が面白半分にて書立つるは何たる事ぞ。文學上道德の爲めに、之を擯責す。

○新聞雜誌

各新聞紙の賣れ高は大抵半數に減じ、雜誌類の發兌も亦之に準ずと云へり。而して、工藝專門敎育上等の文書は、漸次に其勢を增すと云ふ。共に吉兆とす。

問答

可愛子

●問。私は基督敎を信じて居りますが、私の兩親や、居村の人々が、公然信徒たるを許しませぬ、而已ならず、果は色々と惡評を致します、是等はドウ致したら宜しう御座いますか、且又父兄の許諾なきに、洗禮を受けても差支御座いませんか（越中一女子）●答。コウいふ事は信仰上に關する故、ドウしたらよいと申し上げることは出來ません、たゞ新約聖書をよく御調べなさツて、又よく祈禱をなさるが宜しう御座います、サスレバ、神は必ずアナタの心を開いて、正當な判斷と決心とを與へるで御座いませう。

●上毛線村女史様　十津川は定價三十五錢、郵税四錢、日本橋區通四丁目五番地春陽堂の發行です。

●福嶋信夫女子様　通信女學第十三卷は、昨年一期生の分の殘本が、女學雜誌社にあります。

女報

可愛子編

●天皇陛下の御嗜　我が天皇陛下の文武の道に大御心を寄せらるゝとは、今更申すも畏こきとなれど、殊に和歌を深く御嗜あらせられ、御不例に渡らせらるゝ時の外、御製の無きは殆んど稀なりと、隨て皇后陛下を始め奉り、女官達へは必ず日毎に勅題を賜はりて詠進せしめられ、又一ヶ月三四回程づゝは侍從並に御歌所の掛員までも勅題を賜はる由。

●皇后陛下の恩賜　先頃正四位を贈られたる舊長州藩士周布政之助氏の妻幸子は、本年六十三歲なるが、持病のため打臥し居りしに、皇后陛下には右の趣聞召され、此程御物幷に金若干圓を下賜されたり、幸子は病中ながら此事を聞き、天恩の優渥なるに感泣したりと云ふ。

●高輪御殿　昌子内親王房子内親王兩殿下御住所高輪御料地區域內を、自今高輪御殿と稱せらるゝ旨、去る十三日御沙汰ありたり。

●園典侍の御懷妊　園典侍は來月臨月に渡らせらるゝを以て、此程貴族院議員林友幸子に御降誕係を仰付られたり、右に付同子は近々青山御所內の御座殿へ移住する由にて、御降誕の上は當時宮內省御用邸なる、麻布市兵衛町舊毛利子爵の邸を以て御養育殿に充させられ、同子續て御養育掛たるべしと。

●尺先生の未亡人明治女學校に寄附金す　尺振八先生が共立學舍を本所に開きて後進を誘導し、一時書生の多き慶應義塾、共立學舍、同人社を府下の三學舍と云ひしが、其薰陶を受けし數千の子弟多くは民間に居りて、政府部內に顯はるゝな

きも、貴族、衆議二院の議席二十個ほどは其門人にて占むるといふ、先生の未亡人菊子夫人今は山の手に閑居し、明年は先生の七回忌に當るを以て志の程を致さんと思ひ居られしが、原來先生は極めて外見修飾を嫌ひ、聞知して到る者は格別なれ共、葬式の通知を爲したるが爲め、浮世の儀式にて會葬する樣なるとは好ましからずと、門人中にも極めて親き者の外は卒去の通知をも止むる旨遺言せし人なれば、儀式張りたる法會を營む等は其志に非るべし、セメテは紀念の爲め其の終生の業に因みある敎育費中に心計りの寄附せん、ソハ某々等の學校ぞと心組み居りし際、明治女學校にて學課補足の爲め義捐音樂會を催すと聞込まれ、此程金十五圓寄附せられし由。

●中村敬宇先生の葬式は　去る十四日に行はせられたり、高等女子師範學校の總代は、祭文を誦讀せり。

●育啞學校生徒故敬宇先生を輓す　同校生徒は先生の德を慕ひ、誠心に弔問哀悼の意を表して、會葬の折には樹木二株を塋側に献じ、螢百疋を放生するなど殊勝の擧動ありたるが、猶ほ同校生徒より先生の遺族へ弔詞をも贈りたりといふ。

●青山英和女學校　に於ては今度更に手藝科を設く。

●高等女學校敎員志願取扱　目下文部省に於て協議中なる高等女學校の敎員檢定試驗願書は六月三十一日迄東京府廳に於て取扱ふと云ふ。

●東京府下公立小學校女生徒の數　は一万九千二百十七人なり、(明治二十三年十二月三十一日調)。

●東京府下にて最も古き小學校　は淺草區猿屋町の育英小學校にて、明治三年の創立にかゝると、敎育報知に見ゆ。

●白拍子慈善芝居の催し　都新聞は記して曰く、よし町の若拍子共申合せ、福田會育兒院へ寄附の爲め、近々蠣売町友樂舘に於て慈善芝居を興行せんと目下相談中なるが、役者は奴、〆子、さん子等が先棒後見はお豐なりと、嗚呼吾人又何とか云はん、彼れ賤業女、自らの慚らべきを知らず、妄りに此擧をなす、而して福田會は果して此金を受くるや否や。

●東髮地獄石田しづ　加賀撰出の衆議院議員遠藤秀景氏と、終世の苦樂を共にせんと約し、約を破りたるを憤て、遠藤氏を刺さんとし、短刀を盜みて告發せられ、此程豫審終結になりたる石田しづといへる東髮地獄は、口に任せて府下二三有名の女學校にありしを陷れり、彼れ是まで幾人にか肌を汚せりと聞けば、今日此事ある、又怪むに足らず、たゞ怪むべきは堂々たる議員遠藤氏の之に關係あるとなり、されど是亦怪むに足らざるか、嗚呼。

●日本新聞の詩評　日本新聞に、北國雄と題せる詩あり、其詩の評に曰く、只此好色、尤似英雄と、アゝ英雄の價値も亦斯の如く安く卑きか、記者請ふ前號の女學雜誌「明治の靑年に眞英雄を紹介す」の一文を觀よ。

●サツカリンの撿査　前號に記載せし「サツカリン」は衛生上有害として歐洲諸國中菓子に用ふるを禁ずる所もあるに付き、我國にても之を禁ぜんと其筋にて撿査中なるよし。

●露國公使の夫人聖恩に感じて病氣癒ゆ　過ぐる日露國皇太子殿下の接伴係たりし、有栖川威仁親王殿下を始め、川上中將、伊東少將、三宮式部官及び露國公使並に其の夫人令孃等に、御陪食仰付けられしが、公使の夫人は其の二日前より風邪の爲め發熱の氣味ありて外出ならざりしも、餘の儀と違ひ御陪食とあるからは、爭で優渥なる聖恩に背き奉るべきと、推して參内しけるに、我　天皇陛下は最と畏き御言葉等も掛させられけるにぞ、公使諸共轉た感涙に咽び、夫人の病氣は之が爲頓に癒へたりとなん。

●露國公使感泣して厚意を謝す　此程有栖川宮御父子より露國公使及令婦人令孃等を芝離宮に御招待の上、威仁親王殿下には、御躬ら公使及令夫人を先導せられて、露國皇太子殿下の爲め設けられし御居間、並に希臘親王殿下の御居間、其他御寢室應接間抔に充つべき各室に御案内相成り兇者の爲め殿下の御入京遊ばされざりしをいたく惜まれければ、露國公使にも有栖川宮兩殿下の御懇切なるに感泣して、同宮の寫眞を頂戴致すべしと申出でられたれば、早速御承諾遊ばされたりと。

●露國皇太子よりの寄贈　露國皇太子殿下よりして、此程東京市養育院へ金千圓、東京感化院へ金二百五十圓、福田會へ金五百圓、安生堂産院へ金二百圓、又過日御來遊の節御通りの途上を護遊したる警官へ慰勞として金二千圓、御寄贈遊ばされたり、御志の程感佩に堪へざる也。

●横濱婦人慈善會第二回バザー　前號に記載せし慈善會は、去る八日再び山手公園地に開きたり、天氣晴朗なりしが故に、來會者夥しく爭ふて物品を購ふよしにて、其揚り高數千圓を超へたり、又同會に於ての古風十二月の儀式、婚禮式、茶の湯等は、外人の着目する所となり、其見料として集まりし金も莫大なりしと云。

●結婚　京都同志社敎師浮田和民氏と下村いつ子氏の結婚式は、六月六日夕、鴨東常盤樓にて擧行されたり。

●同志社看病婦學校第四回卒業式　は六月廿四日執行せらる、卒業生は家村こふ、濱田しげ、高橋ちよ、久保田きよし、西山らく、原きち、富田さく、谷口はな、大塚もとの、梶谷なか、十氏なりといふ。

●理科大學簡易科生　京都に於ては此程理科大學へ三名程、卒業の上、尋常師範學校、尋常中學校及び高等女學校へ雇入るゝ豫約を結びて入學せしめんと、目下其人を撰擇中の由。

●京都唱歌會の卒業證授與式　同會は會長三吉氏等の熱心盡力にて益々盛大に赴き、西京小學校の唱歌敎員は多く同會より出でしが、去る七日午後三時下京第十五尋常小學校にて、同會第四回の卒業生を出せり、高等科普通科六十四名。

●山梨英和女學校の文學會　毎月一回第二金曜日(前々號に日曜とせしは誤)に開く、同會は寄宿生徒が各自學習せし所の歷史、理科、感話等を、一は練習の爲め、一は所思を衆人の面前に臆する所なく述ぶる習慣を養はん爲めに設けたり、唱歌、讃美歌等を歌ひ、面白き遊戯をもなすと云ふ、山梨縣下女學校の文學會は之を以て嚆矢とす。

●工女を奨勵す　山梨縣下甲府太町矢島製絲場にては、近來工女の午前三時前ま

●今日午後二時半より帝國ホテルに於て、明治女學校々資義捐音樂會開く。

●來る二十七日(第四土曜日)午後二時より牛込拂方町二十四番地牛込教會に於て、東京禁酒會奬勵演説會開く、辨士は米國哲學士根本正氏、幷に米人ソーパー氏。

でに出勤する者へは褒賞を與へて奬勵するといふ。

●三星織工場　は飛驒高山に在りて、機械二十餘臺、工女七十餘名、海外の輸出を目的として、廣巾羽二重ハンカチーフ地等を織立て、目下頻りに改良を加へ居るよし。

●石川縣工業學校　に於ては本月十日、織物科卒業女生三名を出せり。

●廣嶋縣下婦人社會の現況　同縣下の婦女子は小學校を卒れば多く勉學を廢す、而して土地一般の氣風女子教育の有害無益を吹聽して、たゞ婦女を業務にのみ使役するは誠に歎息の至りなり、又中等以上の婦人に至りては、家外を歩行する時は一般の人士之を擯斥するといふ、故に十年の久しき未だ曾て細君が屋外に顔を見せたるをあらざる話もありと、願くは早く斯る頑固の風を改良せんことを。

●谷將軍女子教育談　去る五月二十九日高知縣下中學校女子部教員上野てつ氏等發起となり、歸縣中なりし谷將軍を上野氏宅に招待し將軍が先年歐洲巡回の際、實地目擊せられし、墺都ウヰンナの文官女學校槪況に就ての談話を聽聞せりと云ふ。

●英國女皇陛下の衰弱　英國女皇陛下は過去數月以來著しく御衰弱の模樣なりと。

●靈智協會の女菩薩　と仰がれたる幻術者露國人ブラウヮツキー夫人は去月八日倫敦に於て寂滅せり、十月ヶを火葬して一片の烟となし了んぬ、夫人の著書は極めて多し、其傳記は女學雜誌二百廿九、二百三十、二百卅一の號に掲載せり。

週報

●官令　九日勅令を以て府縣會議員定數規則の件を裁可公布せらる●十二日勅令を以て東宮武官官制の改正を裁可公布せらる●十三日勅令を以て警備隊條例中追加の件を裁可公布せらる●同日勅令を以て陸軍乘馬飼養條例中改正の件を裁可公布せらる。

●政治　三日檢事總長三好退藏氏司法次官に任じ、司法次官箕作麟祥氏依願免本官●七日東雲新聞風俗壞亂發行停止●八日改進黨靑年政談演說會●九日內閣會議●同日東洋俱樂部密會●十日樞密院會議●同日自由黨部長會●十一日國民自由派舊友懇親會●同日板垣伯地方遊說の途に上る●十二日自由黨の內閣惣辭職上奏書差出して直に差戾さる●十三日臨時閣議●同日農商務次官石田英吉氏依願免本官●同日北海道長官永山武四郎氏依願免本官●十四日常備艦隊大和艦を淸國上海に派遣す、上海の暴動に付き我政府本邦人萬一の保護として●十四日自由黨政談演說會中止會散●十五日日本、あづま、東雲三新聞解停●同日外務次官岡部長職氏任特命全權公使、大阪府知事、西村捨三氏任農商務次官、福嶋縣知事山田信道氏任大阪府知事、渡邊淸氏任福嶋縣知事、長野縣書記官大越亨氏任滋賀縣知事、滋賀縣知事渡邊千秋氏任北海道長官、兵庫縣知事林董氏任外務次官。

●彙報　十五日同人社同窓會。

●日本全國卒業女學生人名人數一覽(學校創立より本年四月に至る、)(第五)

●女子高等師範學校　佐久間りく子　師岳のぶ子　岩崎ちせ子　佐方しづ子

東京の部（四）

山崎ゑい子　諏訪たか子　古市らく子　水野みれ子　長谷川ふみ子　山岡くわ子　靑山ちせ子　一晉ふく子　鈴木きみ子　田中穎子　岡村ますゑ　拍井いち子　蘆野はる子　榎本つれ子　雨宮つれ子　小野てい子　吉川わかな子　中村ふみ子　小具てい子　關口鏘子　萩野ぎん子　鬼頭ます子　埴原鏡子　喜多見さも子　小沼なみ子　平塚さう子　平塚ひで子　雨宮たに子　明石まつ子　寺田せつ子　杉本あい子　蘆野たか子　姫田まつえ　竹澤さと子　丹ちやう子　早川みつ子　福島なか子　木村てい子　内村まさ子　柳かう子　金澤ちま子　原川てい子　高木みえ子　菊地かな子　脇屋てい子　木下はる子　神谷みち子　箕輪つる子　上野ぎん子　厚木すゞ子　宇佐美延枝　吉田けい子　清川なつ子　丸橋みつ子　信太きく子　松井てる子　高峰じゆん子　加藤きん子　山下紛子　巽ふき子　高橋きん子　村島ちか子　上田ろく子　南つれ子　里見えつ子　佐々木ふみ子　渡邊さと子　杉野さき子　白戸つる子　安岡いく子　金子せん子　安達りう子　進藤つる子　田中よし子　白石ちか子　有賀もりえ　小林ゑい子　寶生さよ子　阪口たか子　鈴木はる子　志賀こう子　小池なつ子　吉村かな子　押川ゑい子　長谷川てつ子　永井たか子　厚木くら子　田寺てふ子　猪子ふで子　多賀はる子　川名こう子　伏見りう子　堤きよ子　松下しやう子　長嶺さだ子　本多よし子　小野澤かつ子　石川こと子　平田つれ子　劉ふみ子　平松みきえ　山本ふみの　長岡ぬい子　菊地のぶ子　相磯まさ子　星野りち子　山崎みち子　井上なみ子　藤田すゞ子　近藤すて子　田澤よう子　渡邊せき子　里見つれ子　本村せい子　井崎たか子　賀古れつ子　渡邊てい子　阪口たか子　塚田あかすけ　碓井ふさ子　山寺かほ子　坂井おさな　西川しげ子　木村すゞ子　岡本せい子　寺澤ぎしゆく　足立れん子　榊さく子　粕屋かん子　佐々ふん子　柘植いの子　堤まつ子　國分かく子　伊藤ぬい子　西山ます子　小川さち子　阪元ちか子　松田たえ子　福嶋ます子　後閑きくの　合原こと子　加藤よれ子　塙はま子　小谷野ちよ子　篠崎すゞ子　佐藤せん子　瀧本みつえ　齋藤かれ子　柿内なつ子　谷田部順子　佐善いさ子　金子むめ子　音羽ふじ子　鈴木こう子　小野梅ヶ枝　梅村さも子　鵜飼のぶ子　星野てい子　牧しう子　長野はな子　妹尾うめ子　秋元ぶん子　杉浦さだ子　利根川かれ子　清水きい子　永井よし子　瀧けん子　安藤ちか子　須田いく子　齋藤ゆり子　小杉やす子　波多野まさ子　河野いちゆ　奥よし子　吉村かく子　佐竹さく子（次號に續く）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

品名	六月十八日
白米（一円二付）一等米	一斗〇升〇合
二等米	一〇二
三等米	一〇七
四等米	一一一
五等米	一一七
正米（一円二付）越中米	一斗五升一合
越後米	一四八
尾張米	一四六
美濃米	一四九
一志米	一四二
雑穀（一円二付）本貫大麥	三斗二升五合
上州小麥	一六五
竹林麥	一七五
梅澤大豆	二一〇
青柳大豆	二〇〇
吟小豆	一四八
白胡麻	一三〇
黒胡麻	一五〇
鹽（一円二付）赤穂	俵 三六七
大撫	三七七
本齋	六〇〇
新齋	六四五

品名	六月十八日
醤油（一円二付）最上・極上・上物・中物・並物	樽 七分九厘、八五、八九、一一五、一三三、一六五、一八五、二一〇、二二〇、二五〇

品名	六月十八日
味噌（一円二付）地製上白	貫 七、〇〇〇
同上赤	七、〇〇〇
同紅赤	五、〇〇〇

品名	六月十八日
八王子織物（一反二付）八端織・嘉平治平・節仙臺・仙臺平・甲斐絹・節糸織・本糸織・一樂織・飛八丈・岸紵・黒斜子 夏織物（一反二付）伊勢改良縞・同糸入縞・大和紺絣・同白絣・伊豫絣・笠井糸入縞・佐織鼠縞・同糸入縞・同辨慶縞・咲紺絞・紺縮絞・養老絞・糸入愛國縞・物産縞・佐々絣	円 四、五〇、六、五〇、四、五〇、五、二五、六、七五、七、二五、七、二五、七、二五、八、〇〇、三、八〇、三、〇〇、三、七五、三、五[illegible]、三、二五、五、五〇、六、〇〇、一一、七五、三、二五、四、四〇、二、七五、二、七五、七、〇〇、錢 五六、七二、九二、一、一〇、五〇、三〇、七〇、八〇、九〇、三七、五〇、五九、四〇、四二、五〇、四六、五四、二八、三五、七〇、一、〇六、四六、七三、一、二五、一、四〇
白木綿（一円二付）玉鶴・綾鶴・日ノ出鶴・若柳・稲岡・蓬莱・間銘	反 三、四五、三、七五、四、一五、三、二〇、三、四〇、三、八五、三、七五

品名	六月十八日
製茶（一貫目二付）山城江州稀大頭	円 二、七五
同稀頭	二、四〇
同大頭	二、一〇
同中頭	一、七〇
同中茶	一、三〇
狭山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、六〇
同大頭	一、二五
同中頭	一、〇八
同中茶	八五
乾海苔（百枚二付）洲崎	円 七〇、一、〇〇
大森	四〇、一、〇〇
深川砂村	三五、一、〇〇
大師潮田	三五、八〇
炭（一円二付）伊豆上	俵 四、八〇
同中	五、八〇
同下	六、八〇
角備上	二、八〇
丸備上	二、二〇
淺上	三、八〇
土釜	八、五〇
水油（一樽二付）地水	円 六、七五
胡麻	九、〇〇
荏油	九、五〇
桐油	六、六〇
綿油	七、八三
坂水	七、九二
石油（一箱二付）チヤスター	円 一、六四
デボース	一、六四
ホーキ	一、六七
ロシヤ	一、六〇

再開業

下谷西黒門町

（女醫）荻野ぎん子

特に女學生諸君の爲に別室を準備し且つ特待治療す。

外神田松永町

渡邊泰

調製發賣の趣意

小生儀性質非常のちゞれ毛にして殊に色黒く其醜實に甚だしく我れながら衆人に對顔するを耻ぢ困苦一方ならず種々の藥劑を求め使用するも効を奏する者なく一旦治療の念をたゝんとせし程なりしに幸にも獨乙國大醫の顯はす藥物品により一の良劑を發見し之を試驗するに果して大効を得たり依て諸君に進むるに百中百治皆雀躍して喜ぶ依て衛生課の御試驗を受け公賣仕候也

いかなるちゞれけも

一度此藥を用ゆる時は美事直毛となり其

毛一代戻る事なし

本家支店染所へ御來駕あれば即坐に直し髪ゆう斗りにして差上候万一無効の時は

謝金御望み次第を呈す近來廣言を吐きにせ藥を製する者あり御注意〳〵

新發明一種特別なるキレー水の實効ある事世上雑多色白品の類ならず

主治大畧

性質色あざ黒あれにきび其他無名のぼつぐなまづあせもに早効あり又おしろいのちらしよくきめ濃かに美しくなる

東京神田鍛治町廿二番地

元祖 **惣本家** 帝國堂 **山崎嘉太郎謹製**

發賣店兩國米澤町大木口哲 保證店上槇町萬金膏安川

其他各地有名賣藥店に在り何卒帝國堂山崎製御改御求を乞ふ

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

花王石鹸製造発賣元 東京馬喰町二丁目洋物店 長瀬富郎建之

是ヨリ左ハ花王石鹸廣告之用地

内務省衞生試驗所御試驗濟
内務省免許　藥劑師
農商務省前分析課長　工學士
東京愛生病院副院長
帝國大學教授理學士ドクトル
農商務省前技師　工學士
布哇國在勤　醫士
醫科學大衞生學選科生

瀨戸末吉先生發明
高峰讓吉先生試驗證明
中村重治先生實驗證明
飯島魁先生實驗賞狀
大久保親誠先生實驗證明
中澤重友先生實驗證明
今井倭香先生實驗賞狀

花王石鹸は品質全良と効顯の確實なるは右各先生實驗の上**證明**せらるゝ處の佳品にして貴孃紳士の浴室鏡窓に常日缺くべからざる者なり委敷は本品に十四ページの能本を附す本品發賣以來江湖に好評を博せしは本舖の深く感謝する所なり然るに追々類似の効能を附し販賣する者續々あるを以て御愛顧諸君は勿論苟も身體の**美艶**を增し且**衞生**を思はるゝ諸君は登録商標と**長瀨富郎**名義に御注目の上御愛顧あらんとを乞●右價御送附次第郵送す實効廣告の爲當分郵稅弊店持但郵劵代用一割增●府下は勿論各國有名の和洋小間物店及賣藥店にて販賣仕候間御最寄にて御求め被下度候●●●●

此の花王しやぼんを常に御用ひあれば第一**色を白くし美艶肌**となり●にきび●そばかす●はたけ●あせぼ●たむしの類、總て皮膚病一切に妙なり
定價一個十二錢
桐箱三個入卅五錢

佛國貴婦人に永年仕佛語を解し洋裝並に裁縫に馴し婦人にて今般本邦の貴婦人に仕度者あり有志の諸君は左の處へ御照會ありたし。

麻布飯倉片町七番地　八見

第三版

百人一首講義

上製美本　五十錢　郵税六錢
並製淡裝　三十五錢　同　四錢

歌留多遊びに宜し　詩歌に宜し
歌留多遊びに宜し　遺物に宜し

女學雜誌社

交詢案内

四五年前に普通科を卒業し、裁縫も一と通りは出來、二三月前まで暫時小學校敎員を勤め尋常科四年生を敎授したれば見女達の復習なども出來る女生あり、華族方の物堅き家か、左なくも作法正しき家に參り、家事の整理、交際の法など見習ひ度と望む、給料は少しも望まず、事宜によりては食費をも自辨す、御志の方は弊社まで御申込を乞ふ。

女學雜誌社

新版書籍大賣捌

●金森通倫君著

日本現今之基督教 並に **將來之基督教**

定價二十錢郵稅四錢
一冊百六十頁

●木村駿吉君著

女學校用 **新編小物理學** 上製價六十五錢郵稅六錢 並製同五十錢郵稅四錢

右二書本社にて大賣捌致候に付地方注文へは**無郵稅**にて定價のまゝ需めに應ずべく候。尙ほ金森氏著の書は次號の女學雜誌紙上にて**細評**致候に付一覽ありたく又た物理學は二百六十七號にて細評く皆有益の書と信じ申候

右廣告

女學雜誌社書籍部

婦女詞藻

每年四回發兌

權掌侍稅所敦子君。竹屋雅子君題歌 佐々木信綱君撰

第壹編

六月一日發兌

定價一冊拾二錢●六冊前金六拾七錢郵稅四錢

●文章五十篇●消息二十篇●今樣四十首●短歌七百首

附錄

心つくし 稅所 敦子
松島記行 西 升子
金絲鳥 竹屋 雅子
うたゝね 岡田 煉子

懷舊 朝山 元子
寫眞 渡邊 村子
庚子道の記 武女
伊香保記行 弓屋倭文子

發兌元 東京日本橋區本石町三丁目 **博文館**

婦女雜誌

每月二回發兌 石版密書數個挿入

定價一冊四錢○六冊前金廿二錢○十二冊前金四十二錢○廿四冊前金八十錢○郵稅一冊五厘づゝ

第九號

六月十日發兌

口畫は靜が佛に歸するの圖、筆者は有名なる小林永興氏、彫刻精密善を盡し美を盡せり**言の園**には斬新警拔なる社說及び諸家の論說あり殊に添田文學士の論說は前號より續きて益佳境に入れり**忍ぶ草**には懸賞を以て募集したる節婦靜、孝女妙の二傳幷に外國名婦の傳あり**學の庭**には近世國學の名家たりし近藤芳樹翁の源氏物語の奧儀及び音樂小史を載す**文の林**には現今諸名家の歌文數首爛熳として珠玉を列ぬるが如し**藻鹽草**には森鷗外先生の毒舌、內藤燦裂君の東洋女訓、坪谷水哉君の婚姻に就ての誤、歷氣樓主人の好笑等あり又花菖蒲の栞(圖入)は雅尙にして結婚前後(狂畫入)は奇警なり其他諸家の投書あり、有益なる雜報あり**筆の花**には妙齡なる淑女諸君の文あり歌あり皆筆端眞に花あり要するに婦女雜誌は自然の中に於て大進步をなせり。

發兌元 東京日本橋區本石町三丁目 **博文館**

畠山勇子

西京に自殺したる一女子が性格を評論し、其茲に至りたる因緣を推窮して、細かに其皮肉を穿ちたる社說は女學雜誌第二百六十八號にあり。之に續き其次號に於て、**自殺論**を掲げ、自殺に三種あることを說きて之を痛論したり。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

基督のきがく

定價一冊 二十五錢

本書は蘇格蘭の壯年宣教師中にありて屈指の秀才なるゼームス、スタウカル氏の近著にして文脉の明了なる結搆の斬新なる所見の該博なるを以て著われ歐米のクリスチアンにして本書を一讀せざるものは殆んどこれなき有樣なり今植村正久、田中達の兩氏本書を合譯せらるその祈禱冥想の伴侶、人生の指南車となすに適せるとは弊舖等毫も之れを疑はず願くは續々購讀の榮を賜へ

發行所　東京麹町區三番町拾番地　南海社

發賣所　東京築地二丁目廿二番地　一二三館

同　大阪西區土佐堀三丁目　福音社

女學雜誌大安賣

第百號より、第二百號に至る迄、欠號なく調ひ居るもの多少有之候まゝ**百卷**をば僅に**一圓五十錢**にて前例の如く賣拂ひ可申候、其后欠號を生する分八十冊にて**金壹圓の**割にて相そろへ賣捌可申候但何れも一と通りづゝ買入を要する義にて其内撰び取りは斷はり候、右百號より二百號に至る間には、出版の當時世を驚かしたる、「日本の家族」。「浮雲の細評」。「理想佳人」。「理想の紳士」。「家内經濟の大要」。「男女交際論」。「經濟雜誌記者との論戰」。「島田三郎氏米國よりの女界通信幾多」。「無名の英雄」。「戸内の戰死」。大鳥圭介氏、德富猪一郎氏、田口卯吉氏、光明寺三郎氏等の女子教育論。月の舍しのぶ氏が「哲女の卷」。「將來の和歌」。「將來の日本人民」。森有禮氏の「妻妾論」。「櫻花爛熳」。「滿目漠々」饗庭篁村氏が最秀の自作小説とする「昔の夢」。「此大沙漠界一人の詩人あれよ」。「繪畫に於ける國粹保存主義」。「犧牲獻身」。「詩人」。若松しづ子が「忘れ形見」。等の極めて面白き甚だ益あるものを含めり。

喜之福老（きくらくろう）

定價　小袋 金壹錢　大袋 金二錢　小箱 金二錢　大箱 金五錢

●つこをてみるとしれるはのためによきはみがき

本舖　東京神田區松富町五番地舊御成道横町　守分堂　長尾民之助

廣賣　同下谷區池之端仲町二十七番地　寶丹本舖　守田治兵衛

取次所

銀坐二丁目　岸田吟香

上槇町萬金膏　安川榮次郎

新よし町小間物店　井桁や

本石町二丁目　森谷十全堂

本所柳島町　小牧氏

下谷池の端仲町　堺屋油店

神田柳原通　伴岱藏

神田紺屋町砂糖や　間宮はな

深川佐賀町下駄店　上野さく

寺島村米屋　横村

日本橋區瀬戸物町賣藥種問屋　玉置金八

家庭廉價　子供の談　紙數八十葉　郵税なし

女學書類發行　定價十二錢　女學雜誌社編輯

右は子供の爲になる好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結搆なる材料なり。第一、田舍音樂師。第二、菫の君。第三、熊と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ〳〵とタイマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、ままましき兄妹。第十二、正直な樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も惡き所行。第十八、正直なる小娘。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

● 子宮病特効藥の一大發見

郵送税二週間迄貳錢
四週間迄四錢

子宮症より發する下腹の痛●胸の痛●頭痛●眩暈●立くらみ●氣ふさぎ●癪氣つのり故なく悲しく涙いで物事氣にかかりて眠れず俗に癪と血の道と云ふ症には一週間服藥して請合治す●白血●長血●月經の痛●或は産前産後の病に大ひによし
此子宮神藥の該症に特効あるは中正日報藥事新報朝野都やまと其他各新聞及び各國手方の評する所にて卓越の効驗ある事は今更喋々せずして明なり

東京四谷傳馬町壹丁目十七番地
本家 貴女の水本舗 永田義原

日本橋區村松町 岩淵長藏
同 元大坂町 高木與兵衛
同 兩國米澤町 大木口哲
同 上槇町 安川榮次郎
同 松島町 古川勝藏
同 蠣売町三丁目 小堀ミ子
京橋區銀座三丁目 松澤八衛門
同 南傳馬町三丁目 藤田宗助
神田區表神保町 小林謙三
下谷車坂町 吉川緘太郎

本郷一丁目 松澤仙之助
同 眞砂町 尾澤蒼生堂
淺草菊屋橋角 山田清兵衛
牛込築土八幡町 尾澤眞助
小石川區金富町 齢瀧德兵衛
同 仲町六番地 有川文雄
同 諏訪町 小西清兵衛
本所區元町 林忠藏
同 向島枕橋 八百松
麴町區三丁目 河村謙吉

● 陸軍々醫總監松本順大先生口授
● 通俗民間治療法

實價金十五錢（郵税四錢）

此書を讀ば直々松本先生に接したる如く諸病の診察の仕方から病の起るべき原因より用ゆべき藥劑養生法に至るまで誠に深切に説しめしたれは自分の病氣を自分で治療する事を得る古今未曾有の實典なれば生命の貴重を知る人は一本を家に備へ一族の病患を救ひ天然の聖壽を保ち賜へ

東京四谷傳馬町壹丁目拾七番地
子宮神藥本舗 永田義原

國民叢書一册
進歩乎退歩乎

●極製美本 ●紙數百四十餘頁 ●定價拾錢 ●郵税貳錢

○目次 ○保守的反動の大勢 ○新保守黨 ○日本國民の氣風 ○明治年間の鎖國論 ○外人の諛言果して幾何の價値ある ○民信なくんば立たず ○國歩艱難に處する國民の自信力 ○廿餘年間國力の發達 ○改革の偉業は遠大を期せざる可らず ○偉大なる國民

以上十篇、我が國民が區々たる保守的反動の勢に驅り去られんとして將に張膽明目以て東洋の一大國民たる天職を全ふす可きを論じたる雄勁奇峭の大文字也

發行所 東京市京橋區日吉町四番地 民友社

發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學生

第十三號

女學雜誌社 發行

毎月一回發兌●一冊郵税共六錢

女學生
至誠は白刄の如し……星野愼
まとひの筵
書窓隨感……暗光子
哀れさよ……假名子
思ひのまゝ……可愛子
赤兒歌……雲峰子
迷夢……春風子
睦びの家
勇婦……(女子學院)美津子
堀川邸の靜女……(頌榮女學校)高橋のぶ子
都に上る路すがらの感……(明治女學校)鈴木げん子
困苦の櫛端(下)……(女子學院)秋野すゝき
信を保て……(立教女學校)辻甫子
少女の心得……(東洋英和女學校)麻布よし子
Our Service to Our Country……(明治女學校)千住千代子
烈女……(越後高田女學校)赤井登瓦子
五智に遊ぶ……(同　上)京田節子
……布施琴路
寄せぶみ
教育報知の寄書家馬淵生に告ぐ……川合信水
文話……星野忠直
赤染右衛門の傳……豐田伴生
亡母、東都懷古、人世……みゆき生
墓鄕(四)……望鄕生
昔ばなし
檀浦後の安德帝……如是子

女學生全盟各女學校は左の如し

○明治女學校○女子學院○新榮女學校○女子神學校○共立女學校○フェリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立教女學校○成立舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○青山英和女學校○金城女學校○高田女學校

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述	つれ〴〵草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊	同三十五錢
船越鼎太郎君著	産婦小兒攝生法	一冊	同十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同五錢
農學士寺尾熊三著	植物學	一冊	同十二錢
林學生星野愼著	植物 昆虫 金石 採集法	一冊	同十二錢
明治女學校教師八木兼辰著	和書手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治著	鐙子小傳	一冊	同八錢

下六番町六番地
女學雜誌社